

教宣 せぶん

メーデーの意義

前日にガソリン税の暫定税率が復活し、政府の見通しとはまったく裏腹に、市内のGSのレギュラーガソリンの価格が軒並み160円以上を表示するなか、働くものの祭典、第79回メーデーが開催されました。民意をまったく無視した政治手法や、「後期高齢者医療制度」に象徴される弱者切り捨ての政治、憲法9条を改悪し戦争ができる国に変えようとする企みなど、今年のメーデーでの「政治」に対する怒りや不信感は例年以上に強いものがありました。また、大企業本位の偏った政策がとられるなか、私たちがたたかう外勤社員制度廃止事件に象徴されるように、「企業はだれのためのものなのか？」を広く、鋭く世論に訴えたメーデーでもありました。「企業は社会的責任を果たせ」「会社は株主だけのものではない」という大きな声が街頭にこだましました。

2名の外勤支部OBの先輩にご協力いただき、昨年同様メーデー会場で参加者にピラを手渡しました。女性の方から「私も東京海上日動社の自動車保険に加入しています」と声をかけられました。言外に「安心していますから」というニュアンスを感じましたが、お客さんからも、そして働くものからも、真に信頼される保険会社に変えていかなければならないと思いました。

メーデー終了後、3名の外勤支部OBのご協力のもと、団地・マンションを中心にポスティングを行ないました。6カ所を自動車で移動しながら1,200枚をまきました。この日持ってきた1,700枚のピラすべてをまき切りました。その後、現在他社の代理店を営むOBの先輩の案内で、他社の従業員にたたかいへの支援に行きました。お忙しいなか、4名の方と話しをさせていただき、シンポジウム冊子4冊の普及とハガキ15枚をお願いすることができました。

気がついたことですが、話しをさせていただいた方々は本日がメーデーであることを知りませんでした。自社に関連する「品川さん」も「田崎さん」も話題にあがりませんでした。日常業務の忙しさのなかで、働くものの横のつながりや「情報」を断ち切られていると感じました。

強いものに陽が当てられ、弱いものが虐げられる世の中であって、誰もが陽が当たるところばかりを歩けるわけではありません。自分が弱い立場になった時に、困っている時に、手を差し伸べてくれる存在こそが本当の仲間です。働くものから「余裕」が奪われていく時代ですが、こんな時代だからこそ、本当の仲間と同じ時間を過ごせる「余裕」が必要だと思います。いままでとは違う風景が見えてきます。